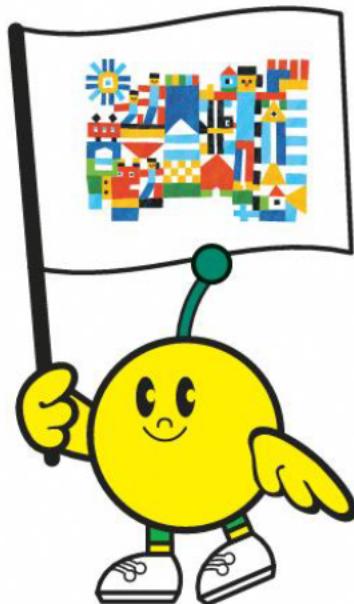
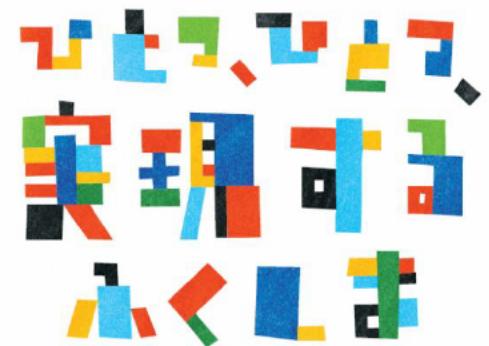


# 福島県 の 創造的教育復興 に向けて



福島県  
復興シンボルキャラクター  
キビタン

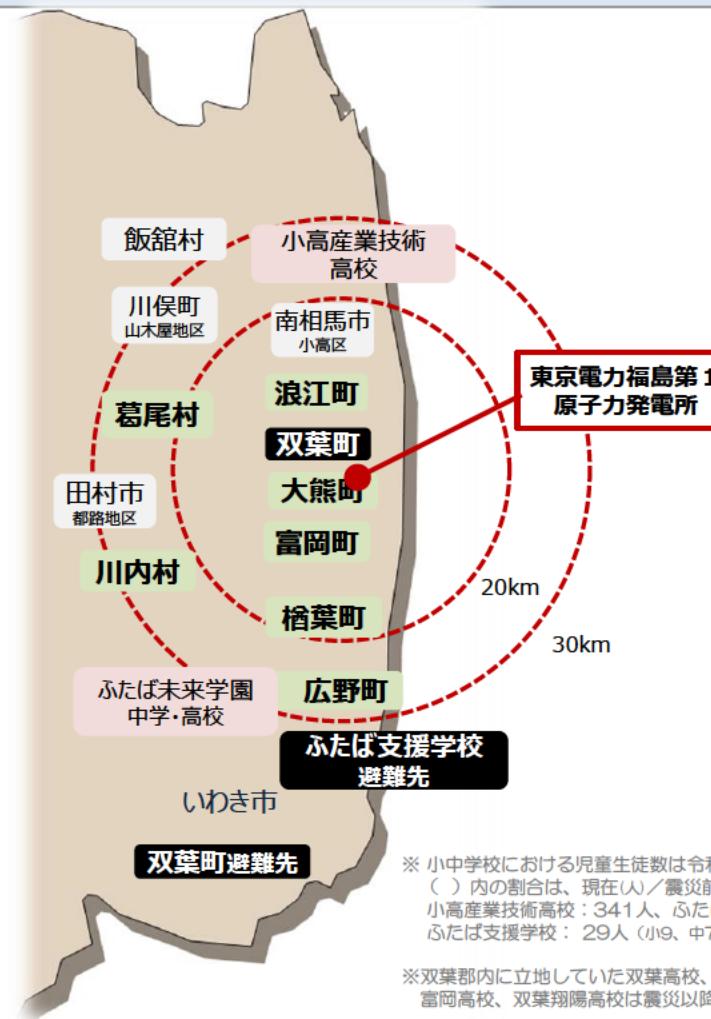
2024年9月13日  
福島県教育庁



# 1. 福島県の学校再開等の状況：継続的な心のケア

## 現状・課題

- 震災前と比較して、児童生徒数は15%に留まる（H22: 8,388人 → R6: 1,245人）。
- 双葉町の小中学校・ふたば支援学校は、現在も避難先（いわき市）において教育活動を実施。
- 今なお帰還できていない児童生徒や帰還や移住により不安を抱える児童生徒への心のケア、帰還や移住促進に資する教育環境の魅力化等への対応のため、スクールカウンセラーや教職員の加配など教育環境整備が不可欠。



避難指示区域等内における小・中学校児童生徒数（人）

	震災前(H22.5)	現在 (R6.5)	
<b>総計</b> うち双葉郡8町村計	<b>8,388人</b> 6,443	<b>1,245人</b> 800	<b>(15%)</b> (12%)
南相馬市 (小高区)	1,087	121	(11%)
飯館村	531	81	(15%)
浪江町	1,773	72	(4%)
葛尾村	112	20	(18%)
双葉町 ※いわき市へ避難	551	38	(7%)
大熊町	1,127	34	(3%)
富岡町	1,487	81	(5%)
川内村	166	71	(43%)
椎葉町	686	218	(32%)
広野町	541	266	(49%)
田村市 (都路地区)	228	60	(26%)
川俣町 (山木屋地区)	99	4	(4%)
ふたば未来学園中学校	—	179	—

※ 小中学校における児童生徒数は令和6年5月1日時点。  
( ) 内の割合は、現在(人)/震災前(人の割合)。

小高産業技術高校：341人、ふたば未来学園：450人、  
ふたば支援学校：29人（小9、中7、高13）。  
(令和6年4月)

※双葉郡内に立地していた双葉高校、浪江高校、浪江津島校、  
富岡高校、双葉翔陽高校は震災以降休校。



## 2. 魅力的な教育環境の整備：「福島ならでは」の学び

2

### 現状・課題

- ・ 地域や社会課題に向き合う探究学習や自己表現に資する活動を実施。
- ・ 避難指示解除や学校再開時期により、地域の実情は様々。魅力的な教育環境、「福島ならでは」の学びの充実は、住民の帰還や移住、定住に資するため、今後の創造的教育復興に不可欠。

### 「福島ならでは」の学び、探究学習の推進

ー 地域や社会の課題を自分事として捉えた課題解決型学習

- 双葉郡の過去の災害と教訓からの学びを活かす防災について探究。
- 未だ地元での学校再開ができない町へ赴き、感じたこと、学んだことを発信。
- 地域探究の対象を世界に広げ、学びを深めるとともに、海外との比較により、福島や日本の現状を再認識。



令和5年度ふるさと創造学サミット

など



海外研修の様子(ふたば未来学園)

### 自己表現や他者理解の充実

ー 演劇、哲学対話等を通じて自己表現力や他者を理解する力の養成

- 地域の復興・創生に向けて抱えている課題を調べ、その課題や実情を演劇として表現。
- 自己表現力や、他者の立場になり共感的に理解する力を養成。



演劇教育の様子(ふたば未来学園)

## 現状・課題

- 福島イノベーション・コスト構想推進機構やF-REI（福島国際研究教育機構）、地域の企業、大学等と連携した特色ある教育プログラムの実施により、専門的な教育・研究の充実を図るとともに、福島イノベーション・コスト構想を担う人材育成の裾野を広げるため、学校教育における理数教育の充実を始めとした初等中等教育段階からの連続的な人材育成を行うことが必要。

## 【令和5年度 福島イノベーション人材育成事業】

### IoTを水産分野に利活用する研究活動

– 福島県立小名浜海星高等学校

- IoT水温監視装置や養殖水槽用の自動給餌器の開発、IoTデータ可視化サイトの構築 など



IoTブイの完成

諸元	
全長	80cm
重量	1.5kg
電源	単四電池3本
防塵及び防水性能	IP 6 8
計測間隔	1時間毎
動作期間	約3ヶ月

図中注釈:  
アンテナ及び電源制御部  
バッテリ及び中継端子部  
水温センサー部



土屋復興大臣視察(R6.9.5)

### ドローンやICTを活用した

### スマート農業の推進

– 福島県立会津農林高等学校

- ドローンによる追肥研究、米の品質向上を目的とした学習、ドローンに関する法律やルールの習得 など

